

## 平成28年度 第1回学校関係者評価委員会 議事録

日 時 平成28年4月15日（金）16:00～18:00

場 所 基礎医学実習室

学校関係者評価委員

出席者：羽鳥龍行（委員長）、斉藤恭二郎、田中 博、矢田真樹

欠席者：中村 聡、鈴木秀旺

教職員：杉山誠一、城 茂高、水野浩一、太田一郎、木村博吉

### 1. 議事次第：1) 開 会

2) 校長挨拶

3) 委員紹介

4) 委員長挨拶

5) 議事（議長：委員長）

（1）平成27年度 自己点検・評価報告（配布資料）

（2）質疑応答

（3）学校関係者評価

（4）その他

6) 閉 会

### 2. 議事経過

#### 1) 開 会

城事務長より平成28年度第1回学校関係者評価委員会の資料を確認し開会の挨拶がなされた。

#### 2) 校長挨拶

委員会に先立ち、杉山校長より学校関係者評価委員会の主旨の説明と挨拶がなされた。

#### 3) 委員紹介

城事務長より、委員および東海医療学園専門学校教員の紹介がなされた。

委員長 羽鳥 龍行 （東海医療学園校友会会長）

委 員 斉藤 恭二郎 （公益社団法人静岡県鍼灸マッサージ師会会長）

〃 田中 博 （NPO 法人熱海市体育協会事務局長）

〃 矢田 真樹 （静岡県鍼灸学術研究会会長）

教職員 杉山 誠一 （校 長）

〃 城 茂高 （事務長）

〃 水野 浩一 （教務課長）

〃 太田 一郎 （臨床センター長）

〃 木村 博吉 (教務課長補佐)

#### 4) 委員長挨拶

羽鳥委員長より挨拶がなされ次第に従い議事が進行した。

#### 5) 議事 (議長：委員長)

##### (1) 平成27年度 自己点検・評価報告

杉山校長より平成27年度学校評価実施報告書の「1. 教育理念・目的・人材育成像」「2. 学校運営」について報告がされた。

水野教務課長より「3. 教育活動」と「4. 学修成果」について報告がなされた。

城事務長より「5. 学生支援」「6. 教育環境」「7. 学生募集および受け入れ」「8. 財務」「9. 法令等の遵守」について報告がなされた。

太田センター長より「10. 社会貢献・地域貢献」について報告がなされた。

##### (2) 質疑応答

羽鳥委員長の議事進行により各委員と教員との質疑応答が行われた。

委員会内での意見を下記に列記する。

**\*矢田委員：**学校評価実施報告書の内容から貴校は組織化されていて内部の様子がクリーンに示されていてとても良い。その結果、卒業生が教育機関や医療・研究機関などで活躍されていることは貴校の成果が結果として表れている成果だと思われる。今後、国家試験合格率を高くすれば、受験生も増加し、附属臨床センターの来院数も増加するのではないかと考える。

**水野教務課長：**国家試験対策授業を44回実施しているが、成果が出なかったことは問題があったと推測される。反省を踏まえて平成28年度は実力試験・模擬試験を中心に行い、自学自習を促すことに重点をおき対応を考えている。

杉山校長：放課後を利用して国家試験対策を手厚くしているのだから結果に結びつかない。近年、学習能力の低下がここ数年目立つようになっており、そのような学生をどのように指導していくかが最大の課題となっている。そこで、平成27年度には学生を対象とした学習アンケートを実施したが、学習時間が不足していることがわかった。本校の学生の8割が1日平均2時間以上、アルバイトに時間を費やしており、学習時間を捻出するのは難しい状況である。限られた時間で学習の方法の質を高めることが平成28年度の大きな課題となる。新年度の始めに私が全学生に対して学習の方法について指導をし、今後も継続的に指導していくつもりである。

水野先生：平成28年度は、3年生を対象とした国家試験対策だけではなく、1年生・2年生の中間試験・期末試験の結果を踏まえて学習指導を強化していくつもりである。

矢田委員：今後、学習方法や学習内容が課題になっていくのだと感じた。

**\*田中委員**：全体的には学校計画に準じて進められていると思われる。先ほど、杉山校長が述べられたことについては、貴校だけではなく全国の専門学校の共通の問題である。学生の充足率に関しては、少子化のため学校経営に支障が出るのも理解できる。また、バイト時間の多さも学生の環境に影響していると考えられる。それらは文科省中心に考える問題であると思われる。

就職率の問題や国家試験合格率の問題については、今後上がってくると思われる。

学生を取り巻く環境についても様々であるが、学生の学ぶ気持ちを尊重してあげたい。熱海市との連携を持っていただき、奨学金制度なども含めて検討していただきたい。

杉山校長：熱海市においても奨学金制度があり、両親が勤務していれば対象になるので、是非活用していただきたいと考えている。（4万円／月の援助）

今後、厚労省の kurikulum 検討委員会にて単位数および時間数の増加が検討されているので、教育の質が確保できるよう努力をしていく。

**城事務長**：本校の財政については、学生の納付金が85%である。学生の定員割れがある状況では、支出を下げていくこととなる。また、貧困家庭も増加傾向にあり、奨学金制度の説明の際は、返却も前提であることも強調している。最近奨学金も負のイメージが強くなっているため、サポート体制についても学生募集に取り込んでいくことを考えている。

**\*田中委員**：訪問診療を始められたのはいつからか？また、一次予防と介護予防についても実施されているのか？

**太田センター長**：平成27年度には計画立案し実施している。

**水野先生**：熱海市からの依頼で一次予防事業として、「セルフマッサージ教室」を開催している。

**杉山校長**：介護予防については、熱海市地域支援事業として、6年前から伊豆山地区と泉地区を担当し「元気アップ教室」を開催している。また、訪問診療については、地域包括ケアシステムの「熱海モデル」プロジェクトとして実施している。

齋藤先生：静岡県下では奨励しているがマンパワーに不足している。デイケアは財政が苦しくなると魅力がなくなる。今後は介護予防を上手に使っていった。

### (3) 学校関係者評価

羽鳥委員長より評価方法について説明がなされ、各委員が評価を実施した。

評価にともない教職員は一時退席した。

#### (4) その他

\*齋藤委員：4月より災害対策委員会を立ち上げる予定で、既にDMAT（ディーマツト）の講習を受けている。

杉山校長：熊本地震のような大きな地震の影響が長期化すると、エコノミー症候群が多くみられるようになる。その際に棟梁療法がそれに対応できる。今後、カリキュラムの中で組み込んだり、教員にも訓練を受けさせたいと考えている。

矢田先生：火災の際の避難経路は整備されているか？

田中先生：有事の際、貴校の役割を考えて欲しい。また学生さんの対応を第一に考えていただきたい。危機管理マニュアルについても大規模災害発生に備えBCP計画の策定が必要である。

杉山校長：危機管理マニュアルは既にあるが、今後見直しが必要である。

#### 6) 閉 会

最後に城事務長より閉会の挨拶がなされ18：00に閉会した。

以上

委員会資料：平成28年度東海医療学園専門学校 学校関係者評価委員会次第（資料1）

学校関係者評価委員会規則（資料2）

平成27年度学校評価実施報告書（資料3）